

2011年3月11日（金）の東日本大震災に対して、発生1週間後以降に行ったボランティア活動について報告する。

1. 福島県南相馬市

1. 1. 日時

2011年3月25日（金）～3月27日（木）

1. 2. 経緯

前回の活動を元に、より具体的な行動のための情報収集と実際の行動を起こすために、谷岡郁子参議院議員、大野元裕参議院議員、松岡ひろたか衆議院議員、高邑勉衆議院議員、大石美恵子越谷市議会議員、高松勇雄周南市議会議員、大野議員の秘書の方2名（木俣敬伸さん、伊藤仕さん）の8人で、現地入りした。

1. 3. 日程

3月25日（金）

23時半 衆議院赤坂宿舎到着

24時半 南相馬市に向けて出発（谷岡議員、松岡議員、高邑議員、篠原）

3月26日（土）

1時半 蓮田PAにて、大野議員らと合流

6時55分 南相馬市役所到着（途中道路にかなりの雪が積もっており、時間が掛かった）

7時 南相馬市災害対策本部会議（桜井市長、市役所各部署責任者、自衛隊責任者、警察責任者、消防責任者、東北電力担当者など）

7時半 南相馬市長との話し合い（南相馬市議、谷岡議員、大野議員、松岡議員、高邑議員ら、篠原）

8時 南相馬市長との話し合い（桜井市長、谷岡議員、大野議員、松岡議員、高邑議員ら、篠原）

8時40分 自衛隊第12旅団長からの説明

9時 食料配布説明会

10時～16時 食料配布作業

16時半 市長との打合せ（桜井市長、総務部長、谷岡議員、大野議員、松岡議員、高邑議員、篠原）

18時 南相馬市災害対策本部会議（桜井市長、市役所各部署責任者、自衛隊責任者、警察責任者、消防責任者、東北電力担当者など）

19時 翌日の予定についての打合せ（谷岡議員、大野議員、松岡議員、高邑議員ら、篠原）

3月27日（日）

7時 南相馬市災害対策本部会議（桜井市長、市役所各部署責任者、自衛隊責任者、警察責任者、消防責任者、東北電力担当者など）

7時半 南相馬市長との話し合い（桜井市長、谷岡議員、大野議員、松岡議員、高邑議員ら、篠原）

8時半 ボラセンでの打合せ（門馬社協会長、谷岡議員、大野議員、松岡議員、高邑議員ら、篠原）

9時 小川町体育館での物資運び込み作業

9時半 要援護者訪問ボランティア

14時 原町区商工会議所への支援物資の運び込み作業

17時 福島県庁 災害対策本部 津川政務官、吉田政務官訪問（高邑議員、高松議員、篠原）

(松岡議員，大野議員，高岡議員らは、11時から東北電力，午後に田村市の視察を行った)

1. 4. 情報収集の場

・南相馬市災害対策本部会議

前報告書と同じ。東電と原子力保安院の担当者が、26日午後の会議から参加した。東電担当者の配布資料は、テレビで見るような程度のもの。東電の担当者は、広報担当で、発言も謝罪のみで参加者が欲しがっているような情報は一切なし。また、27日朝の会議にいきなり原子力保安院の担当者は連絡なく欠席。あまりの緊張感のなさに落胆した。



・市長や村長、市議らとの話し合い

市長とは、頻繁に情報交換や打ち合わせをした。市として困った問題が生じたときにも緊急打合せも行った(後述)。市議団との打ち合わせでは、南相馬にいる市議が全員参加して、一人ずつ現状の課題の報告や国への要望を出した。



・社会福祉協議会との話し合い

25日から本格的に活動を開始したボランティアセンターの活動について話し合った。要援護者への訪問以外の活動なし。26日の食料配布などで地元のボランティアがもっと参加できるシステム作りや、復興に向けて動き出すためのボランティアのシステムの構築が必要なことなどについて話し合った。



1. 5. 被災地についての情報

・被災状況

26日朝時点 死者 276人，27日朝時点 死者 284人，1,000人以上が行方不明
警察は、300人態勢で行方不明者捜索を実施。自衛隊も捜索活動を継続中。捜査難航地域が残っており、遺体の発見もなかなか進まない状況。

・被災地復旧作業

矢沢干拓地にたまっている水のポンプでのくみ出し作業は継続中である。一般人と一般物資が入ってこないため、30 km 圏内では実質何もできない状況である。外から人が入ってこられる状況にしたい。

・被災者の避難

市長としては、原発の問題が解決していない以上、避難を第一に考え、その上で残る人の生活の安定を図りたいとしている。南相馬市内の避難所は、当初 8,000人入っていたが、25日には 200人程度になっており、市長の自主避難勧告に従って避難をした。一方、市議の多くは、避難ではなく市内に戻って復興を進めたいということを第一にしていた。20 km 圏内でも通行している車が出てきており、

住民が戻りつつあるという報告もある。住んでいる人間には、地元は安心感があるため、戻ってきているのだろう。物資が徐々に入り始めている現状で、原発で何かが起こらない限りは、他地域への避難はこれ以上増えない可能性が高い。

新潟県は 17 日から、南相馬市からの車両に対しては、緊急車両でなくても無料とし、帰りについても下道で帰ろうとするのを警察が高速に誘導し、高速で無料で帰ってくるのができたらしい。今後 1 週間ほど、福島県内 12 ヶ所の料金所から避難民が入った場合には、避難する場合に限り無料という対応を取ることになっている。

長岡・上越・燕の 3 ヶ所の避難所に多くの南相馬市民が避難しており、巡回しながら南相馬市職員が対応している。

避難せずに南相馬市に残っている人口を把握するために、26 日の食料配布時に、住民台帳を突き合わせる作業が行われた。食料配布の広報を聞き逃してこなかった人も一部いると思われるが、3,528 人が食料配布に訪れ、家族数を合わせると 8,834 人であった。2 万人が市内に残っているという市の想定より残っている人の数は少ないかもしれない。

・在宅要援護者

自衛隊千葉第一空挺団の全戸ローラー訪問は、27 日朝時点で 90%完了し、市のリストと合わせて、原町区 300 人、鹿島区 600 人の要援護者がリストアップされている。25 日は 46 名の要援護者に、二人 1 組のボランティアにより、小川町体育館から数日分の食料や生活必需品が配布された。要援護者への訪問時には、開き始めた病院に関する情報を提供し、薬や生活物資・食料が足りているかの確認をし、足りないものがあれば渡していた。

・物資・生活等の状況

26 日の明け方に、二本松市から南相馬市に向かう途中では、各地のガソリンスタンドで空の車が行列をなしていた。車を列に並べた上で、人は家に戻っているものと思われた。南相馬市内でも、ガソリン不足は相変わらず深刻。26 日は市内 4 ヶ所でガソリンの販売がされたが、多くの行列ができていた。灯油については、広報車を回して出前をしていた。市長がマスコミに出だしたこともあって、救援物資続々届き、総合卸売市場の倉庫はいっぱいになった。この倉庫内の救援物資は、26 日の食料配布で全て配布することになった。風呂に入れたい人に対して、風呂への送り迎えを市がバスで行うことも検討されている。26 日に米 25 t とカップ麺 10 万個が会津からトラックで持ち込まれたが、トラック協会が県から卸売市場までしか行くなと言われていたから、原町区の集積場には持っていけないと言われ、交渉を続けた結果、運転手の判断で原町まで持ってきてくれたという。また、ローリーを国から借りてガソリンを市内に入れる話も、運転手は出せないとのことで、市内のボランティアを募ってローリーを運転してガソリンを取りに行かなければならなかった。また、南相馬市中央部には、南相馬市側で物運びをこなさなければならない状況は大きくは変わっていないようだ。市内で塗装業を営んでいる方の話では、ガソリン不足のために物資は取りに来てくれと取引先に言われるとのこともあるようだった。

・情報について

東電と原子力保安委員の担当者の常駐が 26 日から始まったが、目新しい情報はなく、市にとって有用な情報はなく、また緊張感もない。原発についての情報が最も欲しい情報。

・マスコミ

朝ズバッのカメラが来て桜井市長にインタビューを行っていた。ただ、相変わらずマスコミは常駐していない。福島県庁において、カタカタとパソコンを叩いている数 10 人の記者と何台も並んだカメラとは比べ物にならない。確かに記者会見で様々な情報が出されるのは福島県庁だが、現場に入って現場を見て現場を伝えるのが、報道ではないのかと、寂しい気分になった。桜井市長は、震災後海外の様々なメディアが取材に訪れたが、国内メディアはなかなか来なかったとのこと。23 日(水)の TBS ニュース 23 が初のカメラで 25 日の NHK が 2 度目のカメラだった。一部の市議の話では、報道関係で 30 km 圏内に入るなという指示が出ていたという。

・畜産業・農業、商工業

南相馬市では、飼育繁殖牛が 400 頭いるそうだが、餌が入ってこないため、今後飼育を続けられるか分からない状況らしい。避難指示の出ている小高区以外の地域では補償されないとされているが、死活問題だ。今は、水稻の作付け時期だが、鹿島区では全体の 3/4 は水に浸かっていないため、売れるというなら、1 ヶ月遅れでも作りたいが、売れる保証もない。双相（双葉・相馬）では数年単位で出荷規制になるのではないかとそれに対する補償はあるのか？といった点に不安が大きいようだ。

南相馬市内には、中小精密機械企業が約 40 社あるが、3 社は危険地区にあるから仕事出せないということで仕事を打ち切られた。運送業も入ってこない（宅急便は二本松まで、佐川は相馬まで）ため、物資が入らない。

・教育

26 日の災害対策本部会議では、公立幼稚園、小中学校は、当分見通しが立たない。原町高校も見通しが立っていないとのこと。多くの学校で校舎にヒビが入っており、耐震性に問題があるかもしれない。また、他市への通学も安全面で問題があるため、何らかの措置が必要だろうが、市長としては相馬市の学校への通学が現実的だと考えている。

・病院

23 日の時点で産婦人科と市民病院のみが再開しており、25 日から眼科が一ヶ所再開する。産婦人科においても、一般診療を受け付けている。

1. 6. 現地での作業

① 食料配布

・実施内容

市内 8 か所で市に届いている全ての食料品を中心に市民に配布した。自衛隊及び地元運送会社が積み込んだ物資を各配布場所に届け、その場で積み荷を降ろした後、配布した。まず、町名ごとの受付で、住民台帳との突合をして、現在家に残って住んでいる人数を聞いたうえで、人数に応じた物資を受け取って回ってもらった。配布した物資は、①米 1.5 kg/人(5 kg 単位に切り上げ)、② 焼とり缶詰 1 缶/人、③ 棒パン 1 本/人、④菓子パン 5 袋/人、⑤ カップ麺 2 個/人、⑥ トイレットペーパー 1 ロール/世帯だった（希望者には粉ミルク缶 2 缶/人と紙おむつ 1 パック/人で配布）。10 時に各配布場所に集合して、準備をして、13 時から 15 時まで配布を行うという予定だったが、結局 16 時頃まで人が絶えず、16 時まで継続して配布を行った。

・実施作業

原町第一小学校での作業に従事した。まず、机を出して表示を作成して、受付場所の設営をおこな

った。その後、最初に来た 20 t トラック（米・生活物資搭載）が原町第一小学校に入れなかったため、3人で小川町体育館に向かって、トラックへの積替え・搬入をした後、原町第一小学校で荷物の積み下ろしを行った。5 kg の米が 6 袋入った箱を約 1,200 箱下ろして並べる作業はかなり重労働だった。自衛隊トラックが持ってきたパンとカップ麺の積み荷下ろしは、重量は軽かったが、数が極めて多く、大変だった。（後から撮られていた写真を見たら、自衛隊員に一人混じっての作業だった。）13 時からの 3 時間は、家族の数を読み上げてもらい、その数だけ米袋を渡すもしくは袋に入れる作業を合間なく続けた。嵐のように忙しい時間で、腕はパンパンに、喉はガラガラになった。15 時以降は、提案して他の物資も米の配給場所に集めて、セットで渡していった。



・安倍晋三元首相来所

14 時半頃、ふと気付くと自民党の安倍晋三元首相らがぞろぞろと大名行列でやってきて、カップ麺配布場所に行き、笑顔で配布側に回って配布を始め、来た人と握手したり写真に撮られたりしていた。5 分程してからふと顔をあげて見てみると、もう手渡しを止めて、避難所になっている体育館に入って行くところだった。後から聞いた話では、体育館の中で被災者と一緒に炊き出しのおにぎりを食べて話を聞いていたらしい。しばらく



して出てきた、安倍元首相は、配布作業がかなり落ち着いてきていた私の所に来て、頑張りましょうと握手をして去って行った。市長もパッと来て何もせずパフォーマンスだけしてパッと帰って行ってしまうことに不満を漏らしていたが、私もこちらはこれだけ頑張っているのに、ただのパフォーマンスかよと、少しムカつきを隠せなかった。ただ、有名人は、ただ来て顔を見せるだけで被災者を元気づけることができるかもしれないし、できる限り多くの場所を回って元気を配ることができるのかもしれない、それぞれの人で最も効果的に被災地を支える術があるのかもしれない、と考えることもできるかとも思った。私が、最も自分の能力を生かして効率的に被災者のためにできるものは何だろうか、と改めて考え直させられる瞬間でもあった。

・大仁田厚の炊き出し

15 時半頃、作業を交代して炊き出しの豚汁を食べて下さ〜い、という市の職員の声に、ふと向こう側を見ると、大仁田厚が炊き出しをしていた。一緒にプロレスをやっている仲間が、この辺りの出身なので、500 人分の豚汁を二か所で炊き出ししているとのこと。馬鹿なことをよく言ったり馬鹿な行動したりもしているけど、ハートで動くこの人、行動力のあるこの人、結構好きかもだ。客が落ち着くのを待って、豚汁をもらいに行った。少し話をしていて、パラリンピック、という言葉を出した瞬間、「あれはゴールデンで放送すべきだ！」と大声で主張始めた。何か一緒にできればよろしく願います。と言葉を交わして別れた。



② 荷物搬入（社会福祉協議会）

・実施内容

26日に配布した残りの食料を、取りに来られなかった人に対して、社会福祉協議会で配布するために、27日朝にトラックから社会福祉協議会内に積み荷を降ろした。

③ 荷物搬入（商工会議所）

・実施内容

27日に、会津から全国の商工会議所からの支援物資（軽油、米、カップ麺、野菜、生活用品など）トラック二台分が原町商工会議所に届き、原町中央自動車学校の事務所に運び込んだ。

1. 7. ローリー事件

経緯

26日の16時半頃、桜井市長が深刻な顔をして、相談したい問題が生じたので、経済部長が説明するから来てくれと言われ、谷岡議員、大野議員、松岡議員、高邑議員、篠原で市長室に向かった。まずは、経済部長の語った困った問題について以下に記す。

南相馬市のガソリン不足の解消に向けて、国からローリーを5台借りうけることができたが、運転手を南相馬に入れることはできないということから、南相馬市で危険物取扱、大型1種、けん引免許を持ったボランティアを南相馬市内で募集し、彼らの運転で宇都宮にガソリンを取りに行ってもらった。

国との契約で、消防法を順守して、ローリーの中で燃料が混ざらないようにすること、運んだ後は中身を残さずに移動することという契約を結んでいたという。一台のローリーが、宇都宮でガソリンを入れようとしたところ、その前に一度ガソリンを運び込んだ際のガソリンが50Lローリーの中に残っていたらしい。そのため、消防法違反だということで5台すべてのローリーの使用にストップがかけられたという。県の物資調達班が、「国の命令で止めた」と言っており、問題なかった4台についても使用が許されず、運転手はローリーを置いて帰ってくるようになったという。

20kL搭載のローリーで50Lの残量があったと言うだけで、この非常事態にその後の運用を止めるとは、あり得ない判断ではないだろうか？確かに、慣れない人間が扱ったことによる消防法上の違反があり、安全上の観点から、厳重な注意等があることは当然であるし、今後の再発を防止させることは必要である。ただし、ガソリンを何日も止めてしまうことによる影響の大きさを考えての判断なのだろうか？杓子定規な判断だと思う。

対応

経済部長は、県の誰の連絡で、国のどこの誰の指示かということも把握しておらず、「国からの命令で県が止めた。」を連呼していた。大野議員が、「ローリーでガソリン関連だと、総務省か国交省か経産省だな、とりあえず全ての担当課長に連絡を取って聞いてみる」と、その場で電話を入れて、対応をお願いした。その後、県の担当者から、エネルギー庁か石油連盟のどちらかが止めているのではないかと、担当者は分からないとの連絡が入った。そこで、大野議員はエネルギー庁も石油連盟も経産省の担当課長の下にあるからと言って、再度経産省の担当課長に電話を入れ、即時対応をお願いした。その結果、翌日からローリーの使用が再開され、南相馬にガソリンが入ってきた。

1. 8. 個人としての行動

・車いすを必要とする人への寄付のマッチング

関西の大学生たちの立ち上げたハートウェアプロジェクトで、募金で購入した車いすの寄贈先を探

しているとの話が NPO happy japan project を経由して入ってきたため、南相馬市において車いすを必要とする人を探すこととした。その結果、小川市議の協力もあって、旧相馬女子高に避難されている方の中で、津波で車いすをなくされて、病院の簡易車いすを使用されている人が数人いることが分かった。そこで、まずは 3 台の車いすを南相馬市へ寄贈することに決めた。今後、もう一度南相馬市に行き、渡す相手に会って、車いすを渡す手はずを整えることとする。

また、老人保健センターなどの施設の方は圏外に避難されていて、今回は状況把握ができなかったが、津波に襲われた老人保健施設のヨッシーランドの入所者らで車いすを失われた方もいるはずなので、引き続き情報を集めて、マッチングしたいと思う。

・避難所等への野菜の持ち込み企画（つくばに帰ってきてから）

今回、食料品の配布をしていて、「缶詰少ないな」「炭水化物ばかりだな」という声も聞かれた。確かに、米にパンにカップ麺と炭水化物ばかりだった。そこで、まず野菜として思いついたのが、今回出荷停止になったハウレン草。つくば市は原発から 100 km 以上離れており、大気中の放射線濃度も低い。それでも、茨城県産として一括で出荷停止になっている。これを被災地に持ち込んで配れば、喜ばれるかもしれない。

その考えで、28 日につくばと土浦の JA に、このアイデアについて説明して打診したが、一旦検討の後にあえなく却下されてしまった（土浦でハウレン草を市場に卸している農家は 1 軒のみらしい）。農家は出荷しないように、ハウレン草を畑にはやしたままにするか、積んだ後畑に野積みしておくよう政府から指示されているとのこと。その後、近くの八百屋に行って、アイデアを話したところ、大いに共感してもらうことができ、28 日に市場のバイヤーを通して農家に打診してみるとの回答をもらうことができた。

野菜の放射性物質の測定を行う機関は、茨城県内では株式会社化研のみとのこと。1 検体 2 万 5 千円。どこか無償でやってくれる機関を見つけられれば最高だが、今のところ、まだ探し中である。一度、化研に無償での分析をお願いしに行ってみようかと思う。

生のハウレン草を被災地に持ち込むのも一部ありだが、日持ちしないことを考えると、谷岡議員のアイデアのボランティアを募って調理してレトルトパックにするという案に乗るというのもありかもしれない。

1. 9. その他気付いた点、感想等

今回は、ガソリンの問題やボランティアに関わる問題に対する大野議員、ボランティアに関わる問題に対する広岡議員、東京電力に対する松岡議員、商工会議所などでの高邑議員の動きや対応を見ていて、改めて国会議員の持つ力を知った。この力を有益に生かすか、無益にいや有害に用いるかは、その議員の資質が大きく関わると思った。私は、政治家になる資質はないと以前から思っているし、なる気は全くないが、自分の資質を生かしてもっと何かやらなければという気持ちを強くした。自分の無力感が悔しく、もっと動いて多くの人の力になれるようにしたいと思った。

大野議員は、さすが自衛隊出身というか、どのような話の中でも穏やかに落ち着いた話しぶりをしながら、的確な指令やアドバイスを連発していた。今回初めてお会いしたが、その切れ者振りに圧倒されてしまった。戦争を二度経験しており、非常時には最初から部下にローテーションで作業させ、長期に渡る作業になったとしても、対応できることが大事だと話されていた。熱くなってすぐに動き回ってしまう私にとって、参考にさせていただきたい話が数多くあった。

今回の震災が起こってから、以前は月に 350 キロ走っていた趣味のマラソンを全くできていない。桜井市長も 42 歳の時に 2 時間 48 分で走られた快速ランナーとのこと、毎朝 5 時半から 10 キロ走

っていたのに、全く走れないなあ〜、とおっしゃっておられた。ただ、私にとって、今一番しなければならないのは、社会の中で自分が受け持っている自分の仕事である。そして、それをこなした上で、被災者のための活動をする。趣味や寝る時間は、削ることが必要な時期なのだろうな。ストレスを発散するために、趣味をすることも多少必要かもしれないが、まだまだそういった余裕のない被災者を見ていると、自分だけそうなるべきではないかなと思う。4月17日の石垣トライアスロンは、開催予定だが、参加は直前まで悩むことになりそうだ。

また、前回の南相馬入りでも思ったのだが、高邑議員は議員になる前からボランティアを続けてきていることもあり、市長や市議から国への要望を出された時や国からの情報を得るときだけ国会議員としての顔をだし、その他の時間は基本的に自分で動き回り、現場では一人のボランティアとして労働力となっていた。政府高官には役割もあるし、こういったことはできないだろうが、現場では議員や政府高官や元首相なんて肩書きは必要ない。やるべき人がやるべきことをする、それが一番大切なことだと思う。

この南相馬市は、原発から近いということで、入ってきているNPOの数も非常に少なく、ボランティアセンターの活動もかなり限られていた。だが、ボランティアで要援護者宅を回っていた若者は、かなりしっかりしていて、彼らの力が集まれば、きっと南相馬は復活できる、そういう思いを強くした。食糧配給時に、ただ来て食料をもらって行く若者も多くいたが、彼らに発信して、彼らに動いてもらえれば、復興は早いだろう。そのためには、彼らを集約し、作業を整理し、道筋を立てて行く、テコ入れのボランティアリーダーが必要だろうと思われたため、広岡議員の関係の方で東北で動かれていた方に、東北でのシステム作りが一段落してから現地入りしてもらうことになった。地元の若者の力が、大きく太くなっていくことに期待したい。

避難所で出会ったおじさんは、家族はみな無事だが家は失ったと言っていた。だが、避難所に来る間に一緒になった人との輪ができて、新しいコミュニティーができて力になっているらしい。南相馬から離れず、復興させていきたいと力強く語られていた。彼らの力になれるように、頑張っていきたい。また、彼の話だが、街中を歩いていて犬の群れに追いかけて相当な恐怖を感じたらしい。近くを通りかかった車に乗せてもらってことなきを得たが、犬がかなり怖いとおっしゃっていた。今後何らかの対応が求められていると思う。

また、要援護者訪問で出会ったおじいさんは、車にはガソリンを満タンに入れてはいるが、おばあさんが車いすを必要としており、自宅から出て避難すると車からの乗り降りもできないし、現地での介護サービスも分からないので、自宅から避難する気はないとおっしゃっていた。このおじいさんには、大野議員が前日の食料配布の際に知り合った鹿島区の介護サービスセンターの連絡先を教え、ここなら遠方に避難したところでの介護サービスの情報も手に入れてくれるからと話をしたため、情報を伝えてあげることができた。自宅を出た遠方の避難所での生活環境やフォローシステムについて、もう少し情報を発信できれば、お年寄りの方や、体の不自由な方が、安心できる場所に避難がしやすくなるかもしれない。